

資料編

(検討経過・用語解説)

1. 滋賀県再生可能エネルギー振興戦略検討委員会	54
(1) 委員名簿	54
(2) 審議経過	55
2. 企業・県民・市町との「意見交換会」等の実施状況	56
3. 用語解説	57

1. 滋賀県再生可能エネルギー振興戦略検討委員会

(1) 委員名簿

【委員】

[敬称略、五十音順]

	氏名	団体・所属、役職等
	きた ひろみ 来田 博美	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター キャリアアドバイザー
	たかむら ゆかり 高村 ゆかり	名古屋大学大学院環境学研究科 教授
	なかもと わたる 中本 亘	株式会社リチウムエナジージャパン 営業部国内営業課長
	はしもと けん 橋本 憲	ひがしおうみコミュニティビジネス推進協議会 事務局長
	はせがわ まさかつ 長谷川 正勝	株式会社ハセック 代表取締役
	ふくえ いちろう 福江 一郎	三菱重工業株式会社 特別顧問
○	ほりお まさゆき 堀尾 正毅	龍谷大学政策学部 教授
	やすだ まさし 安田 昌司	滋賀県立大学地域産学連携センター 教授
	よこやま りゅういち 横山 隆一	早稲田大学理工学術院環境・エネルギー研究科 教授
	わだ さちお 和田 幸男	京セラ株式会社 滋賀野洲工場長
◎	わだ たけし 和田 武	日本環境学会 会長 経済産業省 調達価格等算定委員会 委員

◎委員長 ○副委員長

【オブザーバー】

	近畿経済産業局
	大阪ガス株式会社
	関西電力株式会社
	株式会社滋賀銀行
	JA 滋賀中央会
	生活協同組合コープしが

(2) 審議経過

日 時	議 事 内 容	
平成24年 7月24日	第1回	●滋賀県における再生可能エネルギーの現状と課題について
平成24年 8月28日	第2回	●「滋賀県再生可能エネルギー振興戦略プラン」検討にあたっての論点について
平成24年10月31日	第3回	●「報告書」骨子(案)について ●導入目標(案)について
平成24年11月21日	第4回	●「報告書」(素案)について
平成25年 1月17日	第5回	●「報告書」(案)について
平成25年 1月29日	●「報告書」を県へ提出	

2. 企業・県民・市町との「意見交換会」等の実施状況

①企業への周知・意見交換

日時	内容
平成24年10月17日	太陽光発電セミナー（滋賀銀行との共催）
平成24年10月22日	滋賀経済団体連合会との連絡調整会議
平成24年10月24日	びわ湖環境ビジネスメッセセミナー・意見交換会
平成24年11月16日	エコ・エネルギー社会システム研究会（滋賀経済同友会）
平成24年12月14日	滋賀経済団体連合会定例懇談会
平成24年12月19日	CO ₂ 削減シンポジウム（滋賀経済産業協会）
平成25年 2月 8日	再生可能エネルギー事例発表会（滋賀経済産業協会）
平成25年 2月 28日	滋賀経済団体連合会との連絡調整会議

②県民への周知・意見交換

日時	内容
平成24年11月26日	高島会場（新旭公民館）
平成24年11月27日	長浜会場（勤労者福祉会館 臨湖）
平成24年11月28日	東近江会場（東近江市役所別館）
平成24年11月29日	草津会場（市立市民交流プラザ）

③市町への周知・意見交換

日時	内容
平成24年 5月30日	第3回再生可能エネルギーにかかる県市町研究会
平成24年 8月 1日	第4回再生可能エネルギーにかかる県市町研究会
平成24年11月 6日	第5回再生可能エネルギーにかかる県市町研究会 戦略プランの検討にかかる市町意見交換会
平成24年11月26日 ～11月29日	県内4会場で市町意見交換会を開催
平成25年 2月14日	戦略プラン（案）市町説明会

④県民政策コメントの実施

◆実施期間	平成25年2月8日～平成25年3月8日
◆意見等の提出人数・件数	13名（団体）、40件

3. 用語解説

用語	解説
【カ行】	
関西広域小水力利用推進協議会	小水力の利用推進に関する調査研究を行うとともに、小水力の利用事業の円滑な普及発展を図り、持続可能な循環型地域社会の構築と環境保全に寄与することを目的に、住民、行政、企業、研究機関等が連携して、地域が自主的に行う小水力利用の推進を図る場として平成24年(2012年)9月に設立された任意団体。
クラスター	クラスターとは、「房」の意であり、ぶどうの房のように様々なものが結びついていること。産業クラスターという場合には、特定の産業分野で、資材供給・生産・流通・販売等の関連企業や金融・教育・研究等の支援機関が地理的に集中し、結びついている状態を指す。
湖国すまい・まちづくり推進協議会	住まいづくりやまちづくりに関わる者が連携して、県民の住まいづくりに対する意識の向上や支援を行うとともに、住宅関係産業の活性化などに関する取り組みをすることにより、郷土にふさわしい豊かな住生活の実現に貢献することを目的に、住まいづくりやまちづくりに関わる公益団体、民間非営利活動団体、公的機関などを構成員として、平成15年(2003年)3月に設立された任意団体。
【サ行】	
再生可能エネルギー	化石燃料以外のエネルギー源のうち永続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。代表的な再生可能エネルギー源としては、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等がある。
再生可能エネルギーシステム	一般的な用語ではないが、このプランにおいては、「太陽光発電等の再生可能エネルギー発電施設と蓄電池を併せたシステム等」とする。
滋賀エコ・エコノミープロジェクト	環境成長経済で滋賀県の雇用創出と事業革新を牽引することを目的に、平成19年(2007年)8月にスタートした県と経済団体による協働プロジェクト。「炭素中立県ー低炭素経済を目指してー」と「Green Lakeーエコイノベーション先端県ー」の2つのプロジェクトを柱としている。
滋賀らしい環境こだわり住宅	県内産の木材や自然素材、地場産製品などを活用し、物理的な長期耐用性や省エネルギー化、バリアフリー化などが図られた人と環境にやさしい木造住宅。
従属発電	農業用水や水道用水など、すでに水利使用の許可を得ている水を利用した水力発電。

水素エネルギー	利用段階ではCO ₂ を排出しない低炭素型のエネルギー媒体。今後、民生・産業部門の分散型電源システムや輸送用途の有力なエネルギー源の一つとして一層の活用が期待されている。
スマートグリッド	電力需給両面での変化に対応し、電力利用の効率化を実現するために、情報通信技術を活用して効率的に需給バランスをとり、生活の快適さと電力の安定供給を実現する電力送配電網のこと。
スマートコミュニティ	スマートグリッドによる電気の有効利用に加え、熱や未利用エネルギーも含めたエネルギー全体の需要・供給体制の構築、地域の交通システムや市民のライフスタイルの変革までも幅広く含む、エリア単位での次世代のエネルギー・社会システムの考え方。
【タ行】	
地球温暖化防止活動推進センター	地球温暖化の現状や地球温暖化対策の重要性に関する啓発・広報活動、地球温暖化防止活動推進員や民間の団体の支援活動等を行う組織。地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、地球温暖化の防止に寄与する活動の促進を図ることを目的とする法人のうちから都道府県または指定都市等が1箇所を限って指定する。
低炭素社会	「自然共生社会」、「循環型社会」とともに、「持続可能な社会」を構築するための一側面として定義される。平成23年3月に制定した「滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例」第2条においては、「化石燃料に依存しない生活様式、産業構造、都市構造その他の社会経済構造の確立により、豊かな県民生活および経済の成長を実現しつつ、温室効果ガスの排出の量ができる限り削減され、ならびに温室効果ガスの吸収作用の保全および強化がされた社会」と定義している。
適正技術	環境への影響、生産施設、技術の現状、労働力、市場規模、文化的・社会的環境など関連するすべての面から、開発のための技術的ニーズを満たすうえで最も適切な技術。
TJ (テラジュール)	J (ジュール) は、発熱量を表す国際的な単位で、カロリーに代わるもの。T (テラ) は、キロ (10の3乗) などと同じ、補助単位で10の12乗 (兆)。
天然ガスコージェネレーション	天然ガスを燃料として、家庭や事業所等の電力や熱が必要な場所で発電し、その際に発生する熱を温水や蒸気の形で利用するシステムのこと。ガスエンジンやガスタービンの駆動によって発電するものと、燃料電池によるものとに分けられる。
トリジェネレーション	一般的には、コージェネレーション (= 電熱併用) に対して、熱源から生産される電気、熱に加え、発生するCO ₂ も活用するエネルギー供給システムのこと。電気、熱、CO ₂ の3要素 (トリ) に由来する造語。

【ナ行】	
燃料電池	水素と酸素の化学的な結合反応によって直接、電力を発生させる装置。家庭用の装置としては、都市ガスやLPガスから生成する水素と空気中の酸素を反応させて発電し、この反応により生じる排熱を給湯にも利用することによりエネルギー利用効率を高くした、省エネ・省CO ₂ 型の機器が商品化されている。
【ハ行】	
バイオディーゼル燃料 (BDF)	油糧作物(なたね、ひまわり、パーム)や廃食用油といった油脂を原料として製造する軽油代替燃料(ディーゼルエンジン用燃料)。化石燃料由来の燃料に比べ、大気中のCO ₂ を増加させないカーボンニュートラルの特性を持つ。
パッシブデザイン	建築の設計手法の一つ。特別な機械装置を使わずに、建物の構造や材料などの工夫によって、熱や光などをより自然のまま利用したり、空気の流れを制御するなど、快適な室内環境をつくり出す手法。
プラグインハイブリッド車 (PHV)	外部電源から充電できるタイプのハイブリッド自動車で、走行時にCO ₂ や排気ガスを出さない電気自動車の長所と、ガソリンエンジンとモーターの併用で遠距離走行ができるハイブリッド自動車の長所を併せ持つ自動車。
分散型電源	電気の需要地の近隣に分散して配置される中小規模の電源のこと。具体的には、太陽光発電等の再生可能エネルギーを活用した電源のほか、天然ガスコージェネレーションや燃料電池などがあげられる。
HEMS (Home Energy Management System)	家庭向けのエネルギー管理の仕組み、あるいはそのサービス。家電や電気自動車などを通信でつないでエネルギー消費を可視化し、適切なアドバイスを提供してエネルギー消費の最適化を図る。
【マ行】	
メガソーラー	出力1メガワット(1MW=1,000kW)以上の規模を有する大規模な太陽光発電施設。
【ヤ行】	
揚水発電	電力需要の少ない深夜・週末、あるいは豊水期に、下部貯水池からポンプで上部貯水池に揚水し、電力需要の多いときや渇水期にこの水を使用して発電する方式。
【ワ行】	
ワット (W)	電力の単位。電気のエネルギーを使って仕事をする能力の大きさ。
ワット時 (Wh)	電力量の単位。一定の電力がある時間働いて使った電気の量。1Wが1時間働いた電力量を1Wh(ワット時)という。 ※1Whの千倍が1kWh(キロワット時)。